

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2022年11月18日

No.8

2022年度 年末手当妥結！！

基準内賃金×

1.62カ月で妥結！！

～2022年度 年末手当交渉最終報告～

2022年度年末手当交渉は、10月18日の申し入れ以降、団体交渉を積み重ね、職場で奮闘する組合員と共に闘ってきました。8月の豪雨災害による奥羽本線の長期間にわたる不通の際、トラック代行や船舶代行輸送・迂回輸送に尽力し、新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見えない中、安全・安定輸送の確保に最大限努めている組合員と、その家族の切実な想いに応えるため労使交渉を積み重ねてきました。そして本日20時30分より最終交渉に臨み席上、会社は基準内賃金の1.62カ月分とする回答を示しました。

中央本部はこの間の交渉の中で、①上半期の収入は前年を上回っており、計画未達は極めて経営陣の責任であり、その責任を組合員に転嫁することは許さないこと。②新型コロナウイルス感染症の拡大により要員需給が厳しいなかでも、指定公共機関としての社会的使命を全組合員で発揮してきたこと。③消費者物価指数が3%以上上昇し、組合員の生活は極めて苦しい状況に措かれており、特に今年末手当は生活給としての要素が大きいこと。④近年、退職者が後を絶たない状況であり、人材流出の防止と優秀な人材を確保するために「人」への投資をするべきである。ことを主張し、この間の組合員の労苦に報いるよう全力で会社に訴えてきました。

これまでの交渉を踏まえた上で、①「2020年度年末手当の状況よりも厳しい」という会社の姿勢を打ち崩すことができたこと。②会社経営陣は、各種における計画について、達成にむけて全力を挙げる。③要員の確保について、特に運転士と保全に関わる要員の確保に全力をあげる。さらに、離職防止にも責任を持って取り組むこと。④新型コロナウイルス感染予防対策について、業者によるシーツ交換を全国に広めていくこと。⑤職場の老朽設備について、早期の更新を進めていくこと。また女性設備の更なる充実をはかること。を確認したことから、中央本部は今年末手当について、これ以上の前進はないと判断し妥結することとしました。

年末手当獲得闘争にむけて各級機関において役員会を開催し、現状認識の一致をはかり、座談会や集会、レクなど工夫した取り組みを展開した結果、11月15日の全国統一職場集会や現場長要請行動、FAX行動など、多くの組合員と共に闘いを推し進めてきました。中央本部交渉を職場から支えていただいた全組合員の皆さんに、改めて感謝を申し上げます。年末手当獲得の闘いを総括し、次なる春の闘いに活かして行こうではありませんか。

中央本部はその最先頭で闘うことを明らかにし、年末手当交渉の最終報告とします。

以 上